第２回「IF@N: 名古屋大学国際学生フォーラム」

田所　真生子（留学生センター）

虎岩　朋加・渡部　留美（国際交流協力推進本部）

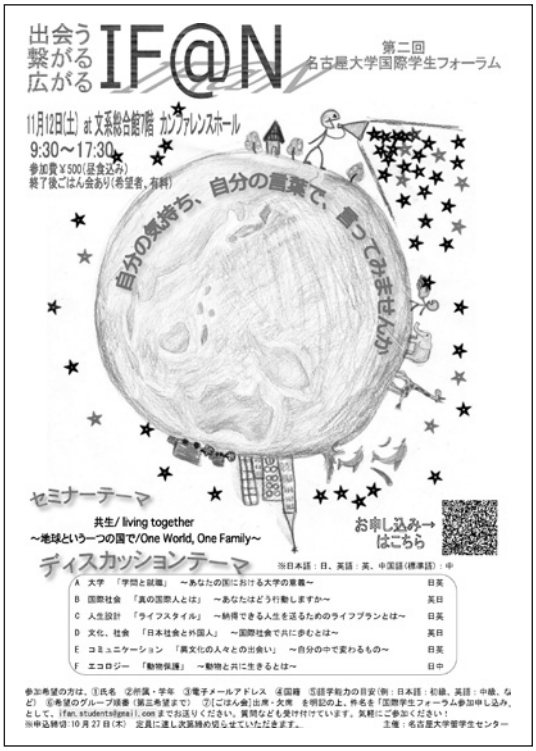
はじめに

名古屋大学ではこれまでも様々な国際交流活動を展開し，主体的に活動している学生たちを教育的にサポートしてきた。こうした活動のレベルを上げ，幅を広げるためにも，本稿で報告するフォーラムのような機会を提供することが望まれていた。また，学生の中にも大学生らしくアカデミックな討論や意見交換を通して，一歩進んだ国際交流をしたいというニーズがあった。そのような中，2010年度に第１回「IF @ N: 名古屋大学国際学生フォーラム」（以下 IF@N とする）が始まり，2011年度には第２回目の IF@N を開催した。本プログラムは二つのパートからなる。一つは，IF@N という国際学生フォーラムとして多くの学生が集い討論会を行なうイベントであり，もう一つは，このフォーラムを企画，運営する実行委員としての活動である。後者については本年報の「アドバイジング・カウンセリング部門（IB740号室）活動報告」をご参照いただき，ここでは，IF@N 当日のイベントについて報告する。

第２回 IF@N

2011年11月12日（土），名古屋大学文系総合館にて第２回 IF@N が開催された。これは名古屋大学のキャンパスに集う多様な学生が，日本語や英語で自由活発

IF@N のチラシとポスター（日本語）



に討議し，意見交換することを通して，国際理解や相互理解を深めるために行なう国際学生フォーラムである。このフォーラムを開催するにあたって，様々な学部・研究科から集まった留学生・一般学生合わせて13名の学生実行委員が３名の教員コーディネーターとともに，この日のために夏から何度もミーティングを重ねて準備を行なった。

今回は第２回目ということで，「出会う・繋がる・広がる」という第１回 IF@N のコンセプトを踏襲しつつも，「共生～地球という一つの国で～」というテーマのもと，新しい試みをいくつも取り入れた。例えば開催時間を長くして，アイスブレーキングや最後の振り返りを含めたディスカッションの時間を増やし，昼食を参加者で一緒にとる機会を設け，終了後には希望者を対象に懇親会を開く等，参加者同士の交流を深める工夫をした。

フォーラム当日の流れは以下の通りである。

９：00～９：30　受付
９：30～10：00　開会式
10：00～10：30　アイスブレーキング
10：30～12：00　分科会１
12：00～13：00　昼食
13：00～15：15　分科会２
15：15～15：30　片付け・移動
15：30～17：10　発表会
17：15～17：30　閉会式
17：30～18：00　片付け・移動
18：00～20：00　懇親会（希望者のみ）

フォーラムには，35名(留学生13名)の参加者が集まり，12名の実行委員（１名が都合により欠席）がファシリテーターを務める，下記のテーマで６つのグループに分かれてディスカッションを行なった。

ディスカッショングループとテーマ

Ａ：大学「学問と就職～あなたの国における大学の意義～」
Ｂ：国際社会「真の国際人とは～あなたはどう行動しますか～」
Ｃ：人生設計「ライフスタイル～納得できる人生を送るためのライフプランとは～」
Ｄ：文化，社会「日本社会と外国～国際社会で共に歩むとは～」
Ｅ：コミュニケーション「異文化の人々との出会い～自分の中で変わるもの～」
Ｆ：エコロジー「動物保護～動物と共に生きるとは～」

ディスカッションテーマのグループ分けについては，参加者の希望や使用言語，学生の国籍のバラエティを考慮して予め決めてあったが，当日キャンセルもあったため，急遽変更せざるを得ない参加者もいた。ディスカッションの進行は，各ファシリテーターがプレゼンテーション等を準備し，それぞれに工夫していた。最初は緊張した面持ちだった参加者も，ディスカッションが進むにつれて和やかになり，生き生きとした笑顔が印象的であった。昼食には弁当を準備した。ディスカッションの途中にこのような一緒に昼食をとる時間を設けたことで，お互いに打ち解けること

ができ，午後のディスカッションが盛り上がったようである。食事に制限のある者への配慮や，会計も発生するため，昼食を準備するのは手間のかかることではあるが，とても好評で是非続けてほしいという声が多かった。交流を深めるだけでなく，ディスカッションの進行に好影響があったという点でもいい効果をもたらしたようである。

ディスカッションの後は，全体で各グループによる成果発表を行なった。さらに異なるテーマの参加者と少人数のグループに分かれて振り返りの時間を持ったのは，自分のテーマ以外の人と話せたこと，他のグループの人と体験を共有することができたということで，好評であった。最後は，地球をかたどったカードにそれぞれのメッセージを書いてもらい，「IF@N」の文字を作って記念撮影を行なった。各参加者の感想や将来の夢・目標，熱いメッセージが込められていて，IF@N 参加者全員の共同作業を形にした記念すべきものになった。

その後，希望者による懇親会が学内食堂の七味亭にて開かれ，実行委員を含めた31名が参加した。ビンゴゲームや歓談で親睦を深めた後，最後にフォーラムのスライドショーで当日を振り返り，長い一日を締めくくった。

おわりに～成果と今後に向けて～

フォーラム終了後，アンケートを行なったが，フォーラムの満足度は高く，次回も参加したいと答えたのは，回答数33名に対し32名であった（詳しい結果については，学生実行委員により作成された『第二回 IF@N：名古屋大学国際学生フォーラム活動報告書』を参照されたい）。好意的なフィードバックが多く，ファシリテーターの準備や配慮がディスカッションの雰囲気を良くし，話しやすい場作りをしていたことが伺える。ファシリテーターは実行委員としての運営の仕事で忙しく，ディスカッションの準備が十分にできなかったと心配していたが，よくやってくれていた。今後は，さらに綿密に準備ができるよう，またファシリテーターとしてのトレーニングを増やしていけるよう支援できたらと思う。参加者はお互いにいい刺激を受け合ったようである。自分を見つめ直す機会となった者や，語学力についてもやる気が出たという者もいた。このフォーラム自体が楽しく教育的であったという感想もあった。

当日の参加者や実行委員も含めフィードバックを見ると，学生たちにとって，このように自分の意見を自分の言葉で語り合い，多文化の交流を深めるのは楽しく貴重な体験であり，こうした場をもっと欲しているようであった。IF@N の前にディスカッション準備のための勉強会を開いたり，プチ IF@N のような小規模なディスカッショングループをフォローアップとして，あるいは継続的に行なうというアイデアもあり，今後そのような機会を増やしていくことが望まれる。

2012年は，第２回 IF@N で見えてきた課題をもとに，さらにパワーアップした IF@N を開催したいと考えている。具体的には，名古屋大学全学同窓会支援事業の助成を受け，通年のグローバル・リーダー育成プログラム行なうことになっているが，前期にこのプログラムでトレーニングを受けた学生たちが実行委員となり，後期にその実践の場として IF@N の企画・運営を行なう予定である。実行委員にとっても IF@N 当日の参加者にとってもさらに有意義な場となるようにサポートしていきたい。そして，IF@N の当初の目的のように，国際理解や相互理解を深めるとともに，グローバルに活躍する人材を育てる機会となるよう願っている。

（名古屋大学留学生センターニュース No.27より一部抜粋改編）